

平成元年度版「複合経営診断設計システム」

(農試 経営部)

1 背景とねらい

昭和58年度普及奨励事項「パーソナルコンピュータ利用による複合経営診断設計システム」は、農家の経営指導並びに各種事業における営農計画の策定に活用されてきた。しかし、本システムに登録してある技術体系の設計データは、その後における生産技術の進歩や新作目導入により、改訂が必要となってきた。

このため、本システムの旧設計データを、新しい技術体系の設計データに更新したので、指導上の参考に供する。

2 技術の内容

(1) 更新した作目及び技術体系数

昭和56年度に公表された技術体系に基づく本システムの旧設計データを、平成元年度に作成した標準技術体系の設計データに更新した。平成元年度に改訂・登録した作目及び技術体系数は表1のとおりである。

現場の多様なニーズに応じるため旧データに比較して、野菜、花き、果樹などを中心に体系数を増やしたことが、今回のデータ更新の特徴である。

表1 作目別技術体系数

作 目	技 術 体 系 数	
	新 データ	旧 データ
菌 茸 類	3	3
養 蚕	5	3
工 芸 作 物	2	2
水 稻	10	11
普通畑作物	3	3
野 菜	78	64
果 樹	7	3
花 き	14	5
畜 産	15	21
計	137	115

(2) データの構成

各作目毎のデータを構成している項目は、新・旧データとも同じであり以下のとおりである。

ア 設計単位当り必要耕地面積

イ 収 量

ウ 粗収益（販売単価，副産物価額，粗収益）

エ 費 用（種苗費，肥料費，光熱動力費，諸材料費，賃借料，成園費，
農具費，建物施設費，流通経費，もと蓄購入費，購入飼料費，
薬剤費，共済掛金）

オ 所得及び所得率

カ 月別投下労働時間

3 指導上の留意事項

(1) 本システムの更新した経営設計データは、平成元年度普及奨励に移すべき事項「統合型ソフトを用いた経営設計支援システム『経営くん』」の標準技術体系のデータと同一のものである。

(2) 『経営くん』を用いて標準技術体系の修正・組立を行った場合には、「複合経営診断設計システム入力帳票」を自動的に作成・印刷するので、このデータを「複合経営診断設計システム」に入力すれば設計結果が得られる。